

情勢報告（令和3年3月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

「道の駅 土佐さめうら」の集客力・販売額アップをめざして ～第5回直販所事業戦略策定セミナーを開催～



- ・レイアウト改善により十分な通路を確保（上）
- ・食べ方提案や商品の魅力を発信するPOP（下）

2月25日に道の駅土佐さめうらで第5回直販所事業戦略策定セミナーが開催され、道の駅スタッフ3人が、6次産業化サポートセンター、県関係者と、店舗レイアウト改善やPOP作成等を確認し、今後の事業戦略の方向性を検討しました。開催にあたり普及所は、前回確認した内容をレイアウト改善に生かせるように準備を支援してきました。

道の駅スタッフからは、「レイアウト改善により十分な通路幅が確保でき、店舗全体の見通しが良くなった」、「POPによる食べ方提案は商品の魅力発信に繋がる」など、前向きな意見が聞かれました。

普及所では今後、「道の駅土佐さめうら」の販売力向上に向けて支援を継続していきます。

花きの土づくりに向けて ～先進農家視察研修～



土壌病害対策の
先進農家視察研修

2月26日、JA高知県れいほく花卉部会はトルコギキョウの立枯病対策を実施している野市町の先進農家を視察研修し、生産者4人が参加しました。

先進農家からは、からし菜を栽培してすき込むことで、辛み成分による土壌病原菌の低減効果があり、あわせて還元土壌消毒の実施や土壌分析から基肥施用量を決定することなどで立枯病を克服しているとの説明がありました。

普及所は、総合的な土づくりを推進するため、視察研修を企画しました。

生産者からは、「作型は違うが情報交換しながら良いところを取り入れたい」や「試験的にからし菜に取り組んでみたい」との意見が聞かれました。

今後も普及所は花きの品質向上のため、総合的な土づくりを推進していきます。

樹形を整えて本年も良いユズを ～剪定講習会を開催～



剪定講習会の様子

3月8、10日、JA高知県れいほく園芸部ゆず部会、無農薬柚子部会は、大豊町と土佐町で剪定講習会を開催し、計32名が参加しました。会では、普及所から剪定の目的や手順等を説明し、枝の切り方を実演しました。

生産者からは「樹勢や園地条件(日当たり等)に応じて剪定する重要性が分かった」「春肥と併せてしっかり管理していこう」という声が聞かれました。

近年、管内では新植する生産者が多くなっています。普及所は順調に成木まで育つよう、JA、部会役員と協力して幼木の管理について指導していきます。

米の増収、高品質化に向けて ～ブランド米「土佐天空の郷」講演会～



発表を聞く参加者

3月9日、本山町プラチナセンターで「土佐天空の郷」講演会が開催され、農家、公社、役場職員30名が参加しました。

近年、高温登熟によって‘ヒノヒカリ’の品質が低下傾向にあります。普及所では、水田センサで標高毎の気温データを計測したところ、登熟温度が高くなる低標高地では‘にこまる’の品質が優れていることを明らかにし、品種転換について提案しました。

参加した農家からは、「品質低下の原因が分かった、‘にこまる’へ品種転換してみる」という声が聞かれ、意欲的な農家が多くいることが分かりました。

これからも普及所は‘にこまる’の生産向上のため、栽培について支援していきます。

準備万端で栽培を開始して収量をあげよう！ ～米ナス作付検討会～



検討会の様子

3月10日、JA高知県れいほく園芸部米ナス部会は、JA高知県本山支所で作付検討会を開催し、部会員7人が参加しました。

JA高知県からは、令和2年度の販売実績の報告や病害虫防除基準の説明した後、生産者全員が作付前のGAP点検シートを記入しました。

普及所からは、定植前後の栽培管理と硫黄粉剤の使用について説明しました。

生産者からは、「硫黄粉剤はばらまきの方がいいか?」、「(硫黄粉剤の)1回あたりの使用量は?」など活発な質問が出されました。

今後も普及所は、栽培管理の向上を目指し、巡回指導や講習会を通じて支援していきます。

～「土佐町の稲作と農地を考えるシンポジウム」を開催～



基調講演や取組事例の
発表者たち

3月12日、土佐町保健福祉センターあじさいホールで「土佐町の稲作と農地を考えるシンポジウム」を開催し、町内の農業者ら37名が参加しました。本シンポジウムは担い手や集落営農組織等が連携して土佐町の農地を守る仕組みを作ることを目指し、土佐町、JA、普及所が一体となり初開催したものです。

町内の酒造会社による基調講演では地元の酒米増産のニーズが、農家代表からは耕畜連携、農作業受託、水稲栽培不利地での畑作物の導入、ドローン防除等による農地を守る取組が紹介されました。

参加者からは同じ町内でも取組を初めて知った、自分も取り組んでみたい等の声が聞かれました。

開催にあたり普及所は、関係機関や参加者と内容の協議を行い、当日は進行を務めました。

今後、普及所は具体的な連携の仕組みづくりに取り組んでいきます。

定植前の決起集会！ ～土佐甘とう作付け検討会～



次作の栽培について検討中

3月12日、JA高知県れいほく園芸部開発部会は土佐甘とう作付け検討会を開催し、生産者6名が参加しました。

JAの営農指導員からは、令和2年度の出荷販売実績や、次作の病虫害防除基準等について説明がありました。

普及所からは、かん水や天敵昆虫、硫黄粉剤の活用など、定植前後の栽培管理について説明しました。

令和3年度から土佐甘とう部会の設立が検討されているため、生産者からは、「これまで以上に意見交換を活発にし、生産者全体の収量や品質を上げていきたい」といった意見が出されました。

今後も普及所は、部会活動の充実や栽培管理技術の向上に向けて、巡回指導や講習会を通じて支援していきます。